

許可を得てホームページ「館長室へようこそ」へ転載

# 天眼

## 科学的な考え方を社会へ

やじりルタ株の感染拡大が収まったと思ったら、今度はオミクロン株の脅威が大きく伝えられている。現在(2日)の段階では、どの程度感染力が強いのか、また毒性がどの程度なのか、ワクチンの効果がどの程度低下するのかが、詳しい情報がなく、いまだに騒ぎ立てることは控

えたいが、一方で十分すぎるほどの警戒感はおへべきである。まさに非日常が日常として続いてきたのが、この2年弱という期間だったであろう。ある新聞の歌壇で、こんな歌があった。

無策とは言わぬが足掛けの三年  
例のマスクにインジウうちわ  
芝田 義勝

思わずニヤリとする歌である。コ

トの多い世の中で、もう記憶の彼方に消えてしまってもあるが「例のマスク」も「インジウ」も「うちわ」も、どれも笑い話として忘れてしまつていものではあるまい。

「例のマスク」は、調達に総額500億円かつたというが、その3割が配布されないままに保管され、保管料だけで6億円の費用がかつていると報じられた。官邸のほんのちよつと思いつきが生んだこの代償は、誰が真剣に向き合うのだろうか。某知事の記者会見があつてすべ

う笑えない話もあった。  
百年前のパンデミック、スペイン  
風邪のときにも、これに類するよ

うな非科学的な推量や宣伝は数多くあ



つたよだ。新聞には、「咽喉を鋭い  
え気力を増」としてキャラメル  
の宣伝が載つたり、「米国の流行性感  
冒(ラウマキ)」なる記事を引用し  
つつラウマキの宣伝なども載せら  
れた。

## 永田 和宏

どれもとなつては微笑ましい便乗広告であるが、百年前も現在も社会を根柢から揺るがすような状況のなかで、如何に科学的な情報が社会と共有されないかを痛感させるものであつた。科学的な情報というよりは、科学的なものの考え方を

科学的なものをいかに思  
わざるを得ないのである。  
科学的とは何かをここで論じるに  
はスペースが足りないが、一つだけ  
言つておけば、科学は基本、比較の  
上に推論がされるものである。そ  
の比較の厳密さが、結論の信頼度と  
なる。

あるAという薬が開発されて、そ  
れが効くか、効かないかを試験する  
としよう(治験という)。まず年齢  
や性別、病状などでできる限り同じ条  
件に揃えた二つの患者群を集め、薬  
Aを投与する群と、投与しない群に  
分ける。投与しない群を対照(コン  
トロール)と言ふ。サイエンスでは  
このコントロールをどのように取れ  
るかが最も大切なのである。  
そのまゝにして、薬Aを投与した  
群で病状が改善したとして、薬Aは  
効果があつたと言えるだろうか。答  
は、ンである。これでは比較になら  
ない。患者は薬を投与されたと思つ  
ただけで効いたような気になる、ある  
とさえあるからである。これを偽薬  
(プラセボ)効果と呼ぶ。  
プラセボ効果を排除する正しい治  
験は、薬Aの入つたものと、他の見  
せかけの薬、即ち偽薬を入れたもの

を、患者はどちらであるかを知ら  
せないままに投与し、そのうえで両  
者の効果を比較するのである。  
実際の治験の現場では、さらに厳  
密なコントロールがとられている。  
薬を投与する医師にも、その「薬」  
が本物が偽物かが伏せられているの  
である。医師の態度から、患者が本  
物が偽物かを判断してしまわないよ  
うにこつ配慮からである。

昔にはさまざまな健康食品やサ  
リメントの広告宣伝が、ほとんどの何  
の比較データもないままに、時に有  
名人などの感想とともに、毎日数え  
切れないほど垂れ流されている。コ  
ロナ禍は、ある意味、サイエンスと  
一般社会がこれまでになく近い存  
在となつた千載一遇の機会でもあ  
る。そんなとき、もう一度、科学的  
なものの考え方を社会と共有する術  
を考えたものである。  
(丁丁生命誌研究館長、歌人)